

Innovation Times

SDGs 横浜の挑戦

Vol.14

企画・制作＝神奈川新聞社 企画推進室



青森の再エネ電力 横浜市内へ

青森県横浜町の風力発電で作られる電力が、横浜市内の企業など6事業者に供給されることになり、9月5日に同町で供給開始式が行われた。横浜市は2050年も見据えた今世紀後半のできるだけ早い時期に、脱炭素化「ゼロカーボンヨコハマ」を目指し、主な電力の再生可能エネルギー(再エネ)への転換を進めており、同名の「横浜」を縁に、脱炭素実現へ後押しを受ける。

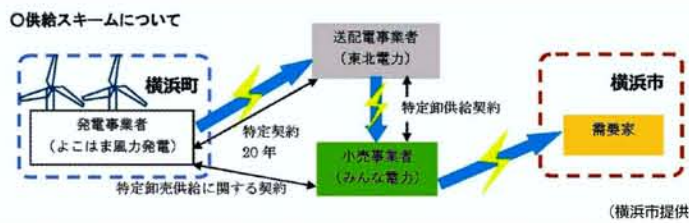
横浜市は今年2月、再エネ 地域資源を補充し支え合う地域の供給源確保に向け、東北の 域間連携を推進。今回の横浜 12市町村と連携協定を結び、町との取り組みは、同協定に



電力供給開始式で、手を取り合う関係者ら
＝横浜町役場(みんな電力提供)

基づく事業開始の第一弾となる。電力を受給するのは①大川印刷本社・工場(戸塚区)②星塚グループ・星塚中学校、星塚高校、星塚学園北斗校(緑区、旭区)③日本郵船水川丸(中区)④横浜銀行神奈川区総合庁舎出張所(神奈川区)⑤横浜信用金庫内本店(中区)⑥横浜中央YMCA(中区)。

横浜市は下北半島の陸奥湾に面し、夏は東風「やませ」、冬は海を吹き抜ける西風が強く、安定的な発電が期待できる地域。同町など出資の「よこはま風力発電」が運営する風力発電所(14基)で作った電力を、固定価格買取制度で東北電力に売電。その電力を、特定卸供給契約を結んだ小売業者「みんな電力」(東京都



6事業者へ供給開始 連携協定 第1弾

※今回は10月9日掲載予定

くれた。「何不自由もなくピアノが弾ける、恵まれた環境にいる」自分に気づき、恵まれない子供たちの存在に心を致すようになった。特に心を痛めたのはアフリカなどの飢饉問題。翌01年から「大地の詩」に出演。04年、14年にはFAO(国連食糧農業機関)の準親善大使を務めた。

SDGテーマに作曲 戸塚のピアニスト西本さん

11月、慈善コンサートで披露

音楽を通して飢餓撲滅を訴えるピアノリスト西本梨江さん(戸塚区在住)が、SDGセンター・さくらプラザで開く「大地の詩」チャリティーコンサートで、初披露する。西本さんが飢餓や貧困に関心を持ったきっかけは、2000年に演奏で訪れたロシアのサハリン。訪問した孤児院で、子供たちが楽器もないのに、スペインや食器で元氣いっっぱい演奏し、弾ける笑顔で歓迎して



SDGsにちなんでオリジナル曲を作曲した西本梨江さん

当日は、特別ゲストにコーディネーターで難民を助ける会副理事長の加藤タキさんを迎え、SDGsへの取り組みを一緒に考えるほか、「愛と平和の調べ」をテーマに、ピアノとフルート(前田綾子さん)の共演もある。コンサ



海の学び場でSDGs語る



・5円が支払われる。同町ではこれを機に、「横浜一ツなぎ」で、ホタテ、ナマコ、野菜など特産品の販売拡大を図り、経済波及効果に期待している。

横浜市は「都市の成長を加速し、企業誘致といった都市間競争にも勝ち抜くためには、再エネを利用できる環境づくりが重要」とし、他の11市町村との取り組みについても推進していく考えだ。

トの収益金はFAOに寄付される。午後6時半開場、同7時開演。全席指定4000円(小学生以下500円割引引き)。

問い合わせは、同コンサート 15112。(春名 義弘)

SDGsを経営戦略に取り入れるための合同勉強会「SDGs実装セミナー」(横浜グリーン購入ネット)が10月24日から、受講生を募集している。ヨコハマSDGデザインセンター企業協力。

同セミナーは「SDG使命」を定義することを目的とし、「持続可能な開発目標活用ガイド」(環境省)を参考書に課題を話し合い、解決策を見いだす。次回までの宿題として各社で実行してもらう。

2期目の今回は、1期生たちに取り組みを紹介して第1期実装セミナーで活発な意見交換を行っていた学び合う受講者ら(今年2月、横浜市立大学)

無料セミナー 会員限定の呼び掛け

来月24日開講「SDG実装へ学び合う」

標とし、「持続可能な開発目標活用ガイド」(環境省)を参考書に課題を話し合い、解決策を見いだす。次回までの宿題として各社で実行してもらう。

2期目の今回は、1期生たちに取り組みを紹介して第1期実装セミナーで活発な意見交換を行っていた学び合う受講者ら(今年2月、横浜市立大学)

無料セミナー 会員限定の呼び掛け